

令和2年2月5日 田中

～風邪に負けずに、頑張り受験生！～

「咳の爺婆尊（せきのじじばばそん）」で風邪予防！

受験シーズンのこの時期、墨田区内の弘福寺（こうふくじ、向島五丁目3番2号、奥田 雅博 おくだ がはく・住職）には、境内にある石像「咳の爺婆尊」へ“風邪除け”の祈願にくる参拝客が増えている。この石像は、制作者である風外（ふうがい）和尚の名にちなみ、「風邪に効き目がある」と古くから庶民の信仰を集めてきたもの。

「咳の爺婆尊」は、高さ約55cm×幅約45cmの「爺像」と高さ約75cm×幅約60cmの「婆像」の2体が寄り添うようにして小さな“ほこら”の中に奉られている。「爺像」は口の中の病気に、「婆像」は咳に効くと一応区別されているが、二体一緒になっているので、まとめてお参りすれば、より一層靈験あらたかといわれている。また、全快した折には、お礼として“煎り豆”と“番茶”を供える風習があり、石像の前には、それらがお供えされている。

弘福寺によると「昔から冬になると多くの人々が参拝に訪れており、1月から2月頃にかけて風邪が流行するこの時期には、高齢者や入試を間近に控えた受験生などが訪れて、熱心に手を合わせる姿が見られる」という。

同寺では、咳によく効くという『せき止め飴』と『風邪除けのお守り』（各300円）も販売されており、参拝の際に購入する方も多い。



＜「咳の爺婆尊」由緒＞

弘福寺の由緒書きによると、この「咳の爺婆尊」は、江戸寛永年間（1624年～1644年）の禅僧・風外（ふうがい）が、相州（今の神奈川県）真鶴の山中の洞窟で求道生活をしている際に、亡き父母を想い、その地の岩石で彫ったもの。風外は、この像を洞窟内に安置し朝夕の供養を怠らなかったという。その石像の見事な出来栄と、風外の温情に胸を打たれた当時の小田原城主・稲葉 正則（いなば まさのり）公は、自分の屋敷に請い受けて供養するようになり、その後、正則公が領地替えとなったため、稲葉家の菩提寺である弘福寺に寄贈されたという。そして、いつの頃からか「風外は“風の外”。だから風邪に効く」という言い伝えが広まり、現在まで地域住民を中心に根強く信仰されるようになった。

《写真》①「咳の爺婆尊」の参拝者 ②「咳の爺婆尊」

《問合せ》弘福寺 TEL 3622-4889（広報広聴担当 TEL 5608-6220）

※問合せは午後5時までにお願いいたします。